

新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

## 1 事業実施内容

モデル事業名	農業分野における障がい者雇用推進プラン	
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠	
事業実施主体名	特定非営利活動法人 人材育成センター	
事業概要	三重県の障がい者雇用は、全国的に見ると高いとは言えない。そのような状況の中で、一人でも多くの障がい者を農業分野で雇用できないかと考え、障がい者雇用を実施している農業経営体と、まだその経験のないところを中心に実態をアンケート、ヒアリング等で調査し、そこから浮かび上がる問題点や障壁を整理・報告する。そして、その結果を踏まえ障がい者雇用を進めるための啓蒙活動として、農業経営体向けに事例報告会やセミナーを開催し障がい者側、農協経営体側双方の理解を深め、障がい者雇用の促進を図る。	
実施期間	平成 23 年度	—
	平成 24 年度	平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 29 日まで
支援額 (注釈参照)	平成 23 年度	— 円 ※総額のみ記載してください。
	平成 24 年度	※総額及びその内訳を記載してください。 2,500,00 円 【内訳】 人件費 : 1,920,000 円 旅費交通費 : 38,887 円 検討会等謝金 : 257,796 円 印刷費 : 291,300 円 電話・郵便料 : 60,399 円 アルバイト代 : 5,500 円 セミナー会場費 : 1,750 円 打ち合わせ経費 : 11,920 円 消耗品・雑費 : 2,847 円 (自己負担費用 : 90,399 円)
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	●協働事業参加組織	
	農業指導者(元三重県農業大学校副校長)：小森善雄様 有限会社亀井園芸：代表取締役 亀井輝忠様 ㈱鈴鹿みどりの大地：代表取締役 後藤博英様 三重県農林水産部担い手育成課：中西正明様 雇用経済部雇用対策課：三宅貴美津様 沖和哉様 健康福祉部障がい福祉課：内田立様 環境生活部 NPO グループ：川端賢一様 寺田麻有里様 NPO 法人 人材育成センター：平塚秀敏 日紫喜良守 田中貢	
	●会議の実施状況	
	実施月日	会議の議題
平成 24 年 4 月 11 日	合同スタートセミナー：目的、事業内容確認	

	4月25日	第一回検討会議：自己紹介、農業と障がい者雇用の現状確認
	5月29日	第二回検討会議：アンケート内容・送付先について議論、今後のスケジュール確認
	6月～8月	メーリングリストによる状況報告
	9月6日	第三回検討会議：アンケート結果確認、ヒアリング進め方検討
	10月4日	第四回検討会議：アンケート調査現状報告、ヒアリング調査の進め方
	11月27日	第五回検討会議：アンケート調査報告、ヒアリング調査状況、事例報告セミナーについての議論
	12月7日	メーリングリストによる農業経営体へのヒアリング調査報告
	平成25年1月24日	第六回検討会議：事例報告・セミナー開催についての最終打ち合わせ
	2月14日	鈴鹿市男女共同参画センタージェフリーすずかにて、事例報告会・セミナーを開催した。
	3月29日	事業報告書作成報告
事業内容	<p>●これまで取り組んできた内容</p> <p><b>【検討会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の就農に関して現状把握と意見交換を実施。障がい者手帳を持たないグレーゾーンの人たちをどうするかということについても話し合いを実施した。</li> <li>・アンケート内容についてどこまで聞き出すか案を出し合い検討し、調査内容を取りまとめた。</li> <li>・送付先は農業に意欲的に取り組んでいる農業指導者をリストアップし、513団体に決定した。</li> </ul> <p><b>【アンケート調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月初旬アンケート用紙を県とNPOの協働事業を明記し8月末期限で送付した。</li> <li>・8月末時点で約100件、最終的に132件の回答を入手した。</li> </ul> <p><b>【ヒアリング調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営体への実態調査（ヒアリング）目標を5ヶ所とし、グリーンクラフト（亀山市）、尾崎畜産御浜ファーム（御浜町）、あかずきんちゃん農園（四日市市）、古御門ライス（松阪市）、武田ぶどう園（名張市）に行くことを決定した。</li> <li>・12月初旬時点で、農業経営体への実態調査（ヒアリング）の目標5ヶ所を完了した。</li> </ul> <p><b>【事例報告セミナー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月初旬に事例報告会・セミナー開催についての大枠を取りきめ、1月末に内容等の最終打ち合わせを行った。</li> <li>・2月14日鈴鹿市男女共同参画センタージェフリーすずかにて、事例報告会・セミナーを開催した。</li> </ul> <p><b>【まとめ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3月事業報告書の作成と提出を行った。</li> </ul>	
当初計画（採択時）からの変更点とその理由	<p>農業経営体への実態調査（ヒアリング）の目標を10件としていたが、5カ所10件とした。</p> <p>理由は1カ所2件（事業体向け、障がい者個人向け）の調査が必要となるため、効率を考えた。</p>	
成果と課題	<p>平成24年度の各取組の成果</p> <p>①農業経営体への実態調査（アンケート）</p> <p>【成果】513事業所に送付し、132件の回答を入手した。回答率は25%であった。また、障がい者雇用に対する意向は半数以上が雇用できないと回答されているが20%の事業所がこれから検討したいという意向を持っていることがわかった。</p>	

	<p>【課題】回答率はあまり高い結果とはならなかった。(平成23年度に県が福祉関係者にアンケートを取った時の回答率は70%以上あったと聞いている。)</p> <p>これは、三重県の障がい者雇用率が平成24年度1.57%で全国45位と低い事や農業分野での障がい者雇用意識が低い事も影響しているのではないと思われる。また障がい者雇用に対する意向では作業への工夫が一番の課題である。</p> <p><b>②農業経営体への実態調査（ヒアリング）</b></p> <p>【成果】アンケート結果から障がい者雇用を実践されている農業経営体5事業所（グリーンクラフト（亀山市）、尾崎畜産御浜ファーム（御浜町）、あかずきんちゃん農園（四日市市）、古御門ライス（松阪市）、武田ぶどう園（名張市））にヒアリングを行った。</p> <p>目標としていた件数のヒアリングが出来、具体的な事例等貴重なお話を聞く事が出来き、アンケートだけではわからない実態が浮き彫りになった。</p> <p>またグリーンクラフト代表の内田恵介様には、事例報告セミナーでパネリストとしてご参加いただき、障がい者雇用のきっかけ、雇用状況、課題などのお話をしていた。</p> <p>【課題】ヒアリング件数が5カ所は少し少ない気がするが、各々の農業経営体において課題は異なるところがあることがわかった。しかしながら全体的に現状では障がい者雇用を実践されているところが少ないと感じた。また雇用していたが既に退職されたところも2件あり継続雇用についても深堀が必要である。</p> <p><b>③事例報告会・セミナー開催</b></p> <p>【成果】2月14日鈴鹿市男女共同参画センタージェフリーすずかにて開催した。定員50名にしていたが、結果的に約80名の方々にご参加いただくことが出来た。この中で農業関係者だけでなく福祉関係者、特別支援学校等教育関係者の方も多く見られ幅広い方々に聞いていただけた。</p> <p>【課題】セミナーのアンケートから「このようなセミナーをもっと各地で開催してほしい」、「農業の分野へ福祉の情報を流す方法を考えてほしい」、「農業者への協力的なバックアップが必要だと思う」など多くのご意見をいただいた。</p> <p>今回の「農業分野における障がい者雇用セミナー」を通し、関係機関との横のつながりはとても重要で、特に福祉関係者や学校関係者との連携をもっと必要になると考える。具体的には障がい者の農業での短期インターンシップや農業従事者や福祉関係者を対象にしたジョブトレーナーの人材育成が必要である。</p> <p>今後も継続的にこの活動を継続することが大事である。</p> <p><b>農業分野における障がい者雇用促進に向けて</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平成24年度の各取組を通じて、障がい者やその家族が実際に農業や農作業にふれる機会や、農業者が実際に障がい者とふれる機会が少なく、双方の交流や雇用の可能性の認識が広がっていないことが課題であると認識できた。</li> <li>農業分野での障がい者雇用をさらに推進するために、福祉事業所、農業経営体、特別支援学校などが連携を深めて、交流・体験の機会や可能性と一緒に検討する場づくりなどが必要である。</li> </ol> <p>上記を踏まえて、平成25年度は国の事業を活用し、「農業分野における障がい者雇用促進」に向けた仕組みづくりを継続して検討します。(互いに協力する方法やインターンシップ、ジョブトレーナー等の人材育成など)</p>
<p>平成25年度以降 の見通し</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>今回の調査と事例報告会を通じて農業経営体での障がい者雇用に理解が深まると思われる。事例報告会・セミナーは来年度以降もなんらかの形で引き続き実施する予定。</li> <li>平成25年度では農業経営体で障がい者を受入れるための情報を提供できるようなくみづくりを考える。 <ol style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用を実践されているところ、および今後受け入れを検討していただけたところの情報を福祉事業所、教育関係者等にも提供していく。</li> <li>福祉事業所のスタッフが、農業経営体での農業インターンシップができるよう福祉事業所に呼びかけていく。</li> <li>セミナーでは養護学校からもたくさんの参加があり農業分野での就業に関心が深いことがわかったので今後は学校関係にもインターンシップ等の情報を積極的に提供していく</li> </ol> </li> </ol>

	3. 次のステップでは当法人で講座を開設して農業経営体の人に障がい者雇用における留意点、具体的指導方法を習得してもらい、福祉事業所の方には農業の知識や実習を通じて農業に対する基礎知識を身に付けてもらうジョブトレーナーの人材育成を行っていく予定。
--	--

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が 50 万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2 成果の達成状況等

平成 24 年度に達成しようとする成果	①農業経営体へのアンケート・ヒアリングによる障がい者の雇用の実態調査報告 ②事例報告・セミナーの開催		
具体的な指標の達成状況等	項目	当初目標設定	平成 25 年 3 月末の達成状況
	①農業経営体への実態調査（アンケート）	目標値（回収：100 件以上）	132 件（達成）
	②農業経営体への実態調査（ヒアリング）	目標値（訪問：5 カ所 10 件）	5 カ所 10 件（達成）
	③事例報告会・セミナー開催	目標値（開催：1 回）	1 回（達成）
	成果指標の達成状況		
	<p><b>①農業経営体への実態調査（アンケート）</b>                      513 事業所に送付し、132 件の回答を入手した。回答率は 25%であった。また、障がい者雇用に対する意向は半数以上が雇用できないと回答されているが 20%強の事業所が増やしたい、これから検討したいという積極的な意向を持っていることがわかった。</p> <p><b>②農業経営体への実態調査（ヒアリング）</b>                      アンケート結果から障がい者雇用を実践されている農業経営体 5 事業所（グリーンクラフト（亀山市）、尾崎畜産御浜ファーム（御浜町）、あかずきんちゃん農園（四日市市）、古御門ライス（松阪市）、武田ぶどう園（名張市））にヒアリングを行った。                      目標としていた件数のヒアリングが出来、具体的な事例等貴重なお話を聞く事が出来き、アンケートだけではわからない実態が浮き彫りになった。                      またグリーンクラフト代表の内田恵介様には、事例報告セミナーでパネリストとしてご参加いただき、障がい者雇用のきっかけ、雇用状況、課題などのお話をいただいた。</p> <p><b>③事例報告会・セミナー開催</b>                      平成 25 年 2 月 14 日鈴鹿市男女共同参画センタージェフリーすずかにて開催した。定員 50 名にしていたが、結果的に約 80 名の方々にご参加いただくことが出来た。この中で農業関係者だけでなく福祉関係者、特別支援学校等教育関係者の方も多く見られ幅広い方々に聞いていただけた。</p>		
達成に向けて行った工夫 または 未達成の原因及び講じた改善策			
<p><b>【アンケートに関して】</b>                      ・アンケートの内容に関しては前年度三重県が何件かピックアップして聞き取り調査した内容を参考に作り直した。なるべく質問項目を減らして忙しい農業関係者が回答しやすいように工夫した。                      ・アンケート送付先に関しては県農林水産部が把握している農業関係団体、農業経営体、農業指導者等のリストから選び出した。</p> <p><b>【ヒアリングに関して】</b>                      ・アンケートの結果から既に障がい者雇用を実践されているところを中心に、そのやり方、工夫、問題点を聞き出し、課題を明確にした。                      ・農業経営体としての意見と雇用している障がい者個人についての調査 2 つを各々の事業体で実施した。すなわち今回の協働事業でのヒアリング成果目標は、事業所数ではなく訪問ヒアリング件数 5 カ所 10 件とした。</p> <p><b>【セミナーに関して】</b>                      ・事例報告会・セミナーでは、障がい者雇用に関する知識を参加者で共有する研修会のようなものを考え、①基調講演、②調査報告、③パネルディスカッションの 3 部構成にし</p>			

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基調講演には検討会メンバーで議論した結果、当法人の職業訓練実習先の一つで障がい者雇用に積極的な、株式会社レグルス代表取締役社長の伊藤良一様に依頼し、快く了承していただいた。</li> <li>・レグルスの伊藤社長は鈴鹿市在住で自ら身障者であることから場所・設備に配慮しセミナー開催場所を鈴鹿市にある「鈴鹿市男女共同参画センタージェフリーすずか」とした。結果的に予想以上の参加者にもかかわらずスムーズに対応できた。</li> <li>・パネルディスカッションを実施することにより、実際に農業分野で障がい者雇用されている方々から生の声をお聞かせいただいた。ただ4人のパネラーにまんべんなく発言していただくのには少々苦勞した。</li> <li>・質疑応答でなるべくたくさんの方から質問を受けたかったが、時間の関係から絞らざるを得なかった。</li> <li>・セミナーの案内ではアンケート送付先や県のネットワーク、HP、フェイスブックのシェア等で広く農業、福祉、学校関係者に呼びかけた。</li> </ul>
<p>現状の 自己評価</p>	<p>評価ランク</p> <p> <input type="checkbox"/> S：特に優れた成果が得られた      <input checked="" type="checkbox"/> A：優れた成果が得られた  <input type="checkbox"/> B：一定の成果が得られた      <input type="checkbox"/> C：限定的であるが成果が得られた      <input type="checkbox"/> D：成果が得られなかった  (該当する評価にチェックを付けてください) </p>